



## 政治社会学会 (ASPOS) 第 7 回研究大会に関して

政治社会学会 (ASPOS) 第 7 回研究大会が、2016 年 11 月 26 日 (土) - 27 日 (日) に武蔵野大学有明キャンパス (東京) にて開催されます。現在大会の発表者公募を行っております。個人発表、セッション企画、日韓ジョイントカンファレンスの発表者等、様々な発表形式が用意されております。奮ってご応募ください。

政治社会学会 2016 年度企画委員長 佐藤洋一郎

### 政治社会学会 (ASPOS) 第 7 回研究大会

日時 : 11 月 26 日 (土) ~ 11 月 27 日 (日)

場所 : 武蔵野大学有明キャンパス (東京) 〒135-8181 東京都江東区有明 3-3-3

#### [報告者応募要綱]

発表希望者は 7 月 27 日までに希望発表形式 (1) ~ (4)、ならびに①~③ (ポスターセッションは①~②) を事務局中村知子 (fwjh1030 アット nifty.com) 宛てにお送り下さい。(アットは@に変換してください) なお、採否の結果は 8 月上旬にメールにてご連絡いたします。

#### (1) 自由発表 個人で報告を行う場合はこちらでご応募ください。

① 発表者名・所属 (日本語、英語) ② 発表者タイトル (日本語、英語) ③ 簡単な要旨 (300-400 字)

#### (2) セッション企画発表

報告、ディスカッションを含め 2 時間から 2 時間半ぐらいのセッションです。

① セッション名 (日本語、英語) ② 各発表者名・所属 (日本語、英語) ③ 発表者タイトル (日本語、英語) ④ セッション説明 (300-400 字)

#### (3) 日韓ジョイントカンファレンスセッション報告

11 月 27 日 (日) 午後に設定されている韓国政治社会学会とのジョイントカンファレンスでの日本側報告者 3 名の公募を行います。テーマは「市民社会と民主主義」です。

① 発表者名・所属 (日本語、英語) ② 発表者タイトル (日本語、英語) ③ 簡単な要旨 (300-400 字)

#### (4) ポスターセッション

① 発表者名・所属 (日本語、英語) ② 発表者タイトル (日本語、英語)

## 政治社会学会支部報告

### 関東政治社会学会

関東政治社会学会では、2016年3月19日（土）午後  
に第17回研究会を開催しました。今回は研究会参加者  
から、研究会内容に関し報告していただきます。

関東政治社会学会第17回研究会「われわれが学んだ  
こと、伝えるべきこと—東日本大震災から5年が経過  
して—」が3月19日、専修大学神田キャンパスに  
て行われた。

第1セッションでは、持続可能な経済社会構築へ向け  
た提言である吉原毅氏(前・城南信用金庫理事長、小原  
白梅育英基金理事長)の「自然エネルギーの可能性・必  
然性」と、宮城県東松島町の地域復興における理論的課  
題を明らかにした新川達郎氏(政治社会学会理事長、同  
志社大学教授)の「被災地におけるコミュニティ再生の  
課題」からなる2つの報告を受け、関係性の再構築や地  
域の自治につき、参加者による活発なディスカッション  
が行われた。

第2セッションでは、大学生による被災地への学習旅  
行の事例を紹介した丸岡泰氏(石巻専修大学教授)と泰松  
範行氏(東洋学園大学准教授)の報告「東日本大震災の被  
災地への復興ツーリズムの可能性—南三陸町の事例から  
—」を受け、学生旅行者側の現状や、受け入れ側被災地  
の課題について多方面にわたるディスカッションが行わ  
れた。（政治社会学会会員 吉田龍太郎）



研究会の様子

なお、関東政治社会学会では第18回研究会を来る  
2016年7月30日（土）午後・専修大学神田キャン  
パスで開催いたします。

#### ◎ 関東政治社会学会第18回研究会

日時：2016年7月30日（土）15：30～18：00

会場：専修大学神田キャンパス7号館7階774教室

テーマ：「日本の近代化～グローバル（アジア・現代的）  
な視点から～」

趣旨説明：原田博夫

報告1：永江雅和（専修大学経済学部教授）

「近代日本の旅行産業」

報告2：永島 剛（専修大学経済学部教授）「公衆衛生」

報告3：山口政幸（専修大学文学部教授）「描かれた新聞  
—松本清張の「新聞」小説／「紙の牙」などから

グループディスカッション（45分）

たくさんの皆様のご参加をお待ちいたしております。

関東政治社会学会会長 原田博夫

（専修大学）

## 関西政治社会学会

### 2016 年上半期活動報告

#### 第 1 回関西政治社会学会研究会(京都奈良 EU 協会後援)

今年 1 月 30 日(土曜日)に同志社大学烏丸キャンパス志高館で今年第 1 回目の研究会を開催した。研究会には約 20 名の参加者があった。研究会は 2 つのテーマについて行われた。

1 部テーマの「参画型市民社会を担う政策主体形成とは」では、二の研究報告がなされた。その一つは、本学会会長の荒木義修武氏(蔵野大学教授)が「市民社会の高等教育と政策形成主体」について、二つ目は、田口美紀まちとしごと総合研究所調査研究部長が「自治・協働型社会の形成に向けた活動の展望と課題について」の報告を行った。

2 部テーマの「現在の EU 問題とは何か」では、フランス・リヨン大学名誉教授 Alain Marc Rieu 氏(大阪大学客員教授)を招き、「The European Union in crisis: deconstructing for reconstructing -The need of collaborative research in Human and Social Sciences-」について報告を受けた。

それぞれのセッションでの研究報告の後、数人のグループに分かれ、グループディスカッションを行った。

#### 学生団体 ivote 関西研修会／関西政治社会学会後援

今年 3 月 25 日(金曜日)、朝 9 時から夕方 6 時まで、京都大学文学部で、演題「人はなぜ投票所に足を運ぶのか」に関する荒木義修武氏(蔵野大学教授)の集中講義(学生団体 ivote 関西研修会)が行われた。

この研修会は、選挙への参加を訴える学生団体 ivote 関西が主催したもので、関西政治社会学会が共催し講師派遣や会場設定等々を後援した。約 50 名の ivote 関西

のメンバーが参加、荒木義修教授の作成した教材を使って、熱心に聴講し、グループディスカッションに参加した。関西政治社会学会として、今回の研修会は政治社会学教育研究に関連する学生団体への初めての教育支援活動であった。



写真 グループディスカッションの報告をする学生

#### 第 2 回関西政治社会学会研究会(同志社大学人文研究所後援、NPOPV-Net 後援)

今年 3 月 26 日(土曜日)、13 時から 18 時 20 分まで、同志社大学烏丸キャンパス志高館で第 2 回研究会が、1 部「自然エネルギー社会は可能か」と 2 部「京野菜生産の現場を学ぶ視点」の二つテーマで開催された。また、この研究会への参加者は約 15 名であった。

1 部では、仁木住男氏(一般社団法人南紀自然エネルギー代表)が「市民共同発電事業と地域貢献 和歌山の事例報告」について、伊藤博文氏(PV-Net 理事 伊豆の国電気の畑代表)が「地域分散型手作り太陽光市民共同発電所のエネルギーシフトに果たす役割」について、市民共同発電所建設の経験に基づいた自然エネルギーの地産地消社会への課題について語った。さらに朴勝俊氏(関西学院大学総合政策学部教授)が「ヨーロッパの再生可能エネルギー普及政策」について報告をした。

2部の「京野菜生産の現場を学ぶ視点」では、佐藤洋一郎氏(大学共同利用機構法人人間文化研究機構理事)野菜作りを大学の教育カリキュラムに導入した京都大学の食に関する教育活動の意味を紹介し、この実習を指導している京都大学大学院農学研究科食物栄養学研究室の関谷大貴氏(同研究室大学院生)がこの教育プログラムの内容や課題を報告した。

そして、各セッションの最後に、我々の研究会のスタイルとなった活発なグループディスカッションが行われた。



写真 手作り市民共同発電所について語る伊藤博文氏

### 第3回関西政治社会学会研究会(同志社大学人文科学研究科後援)

去る5月21日(土曜日)13時から-18時20分まで、同志社大学烏丸キャンパス志高館で第3回研究会が、1部「少子化問題とその対策」と2部自由課題「地域社会の活性化、少子高齢化対策」の二つテーマで開催された。参加者は約20名であった。

1部(第1セッション)では、田間泰子氏(大阪府立大学教授、日本女性学会)が「少子化問題とリプロダクティブ・ライツのゆくえ ー少子化問題を根源から考えるー」について、大束貢生氏(佛教大学教授、日本ジェンダー学会)が「男性から見た少子化問題」について報告し、

活発なグループディスカッションが行われた。

2部(第2セッション)では、水垣源太郎氏(奈良女子大学教授、政治社会学会理事)が「地域社会の活性化としての農業と少子高齢化対策 ー高齢化する中山間地域、限界集落の問題を考えるー」について報告し、新川達郎氏(同志社大学教授、本学会理事長)が水垣源太郎氏の報告へのコメントを行い、活発なグループディスカッションが行われた。

今回の研究会は、1部をテーマセッションとし、当該学会会員への報告をお願いすると共に、他の関連学会からの発表者の応募を試みた。今回の第1セッションのテーマ「少子化問題とその対策」に対して、日本女性学会と日本ジェンダー学会から発表者の応募があった。また、2部は自由セッションとし、本学会の若手研究者の発表のために企画した。今回は、水垣氏が第1セッションと関連する報告を行った。

また、当該研究会の応募を会員のみでなく、関連学会に行うことで、今回の研究会を幾つかの他学会のメーリングリストニュース(ML)で広告して頂いた。今後、関西政治社会学会研究会の在り方を、若手研究者の研究発表の場のみでなく、研究活動への刺激的な場とすることが可能かと言うことが、試されている。



写真 大束貢生教授の発表

## 関西政治社会学会会員主催研究会・講演会(関西政治社会学会後援)

「関西政治社会学会後援、関西政治社会学会会員主催研究会・講演会」と称す、学会メンバーの研究教育活動への当該学会の貢献度を一層高める目的で、今年度から、関西政治社会学会では、会員が主催する研究会や講演会を後援する活動を始めた。今年度前半期に2つの講演会と研究会への関西政治社会学会への後援が要請された。

1、伊藤公雄氏(京都大学教授、政治社会学会理事)の要請による講演会「変容する家族と親密な関係の中の暴力」  
講師：M・カウフマン(Michael Kaufman)、この講演会は、科学研究費助成金(萌芽研究)「男子・男性対象のジェンダー政策をめぐる先進事例の比較研究」(代表：伊藤公雄)によって企画され、4月30日(土曜日)に京都大学文学部本館で開催された。

2、松久寛氏(京都大学名誉教授、関西政治社会学会運営委員)の要請により、第34回目の縮小社会研究会の後援を行った。6月5日(日曜日)、京都大学文学部本館で開催されたこの研究会では、大津定美(神戸大学名誉教授、NPO「小水力発電をミャンマーの農村に」理事)が「チエルノブイリ原発事故はソ連崩壊の原因か」について、西村周三氏(京都大学名誉教授、一般財団法人、医療経済研究・社会保険福祉協会、医療経済機構所長)が「人口減少と縮小社会経済のゆくえ」について講演した。

### 2016年度関西政治社会学会の研究会予定

#### ◎2016年第4回関西政治社会学会研究会(予定)

日時 2016年7月16日(土)午後

場所 同志社大学烏丸キャンパス志高館2階 SK288

1部：「市民参画型社会の構築に向けて」

報告者1：小林幸治氏(特定非営利活動法人 市民がつく

る政策調査会(市民政調)事務局長)

「市民による政策提案活動と法制化の取組み事例—市民政調の活動から」

報告者2：小田切康彦氏(徳島大学准教授)

「地方自治体における協働政策のインパクト」

2部 「自由セッション」

報告者1：山口薫氏(日本未来研究センター代表)

タイトル「Head and Tail of Money Creation and its System Design Failures -Toward the Alternative System Design -」

#### ◎2016年第5回関西政治社会学会研究会(予定)

日時 2016年7月23日(土)午後

場所 同志社大学烏丸キャンパス志高館

1部 「食文化-京料理を語る-」

話題提供者：松本隆司氏(招狸庵 店主) (60分)

「和食・京料理を語ろう—ちょっと舌がすべってしまいました—」

2部 「イギリス EU 離脱をめぐる問題」(提案)

#### ◎2016年第6回関西政治社会学会研究会(予定)

日時 2016年9月24日(土)午後

場所 同志社大学烏丸キャンパス志高館

1部 テーマ「COP21と日本の地球温暖化対策」(提案)

2部 テーマ「自由セッション」(提案)

#### ◎2016年第7回関西政治社会学会研究会

日時 2016年12月10日(土) 午後

場所 同志社大学烏丸キャンパス志高館

第1部「医療政策と社会保険制度」

第2部 「自由セッション」

関西政治社会学会会長 三石博行

## ✦ 会員の活動情報

### 西条・山と水の環境機構の取り組み

広島大学平和科学研究センター助教  
(西条・山と水の環境機構 運営委員)

小倉 亜紗美

広島大学の本部がある東広島市は、酒都「西条」がある街でもあります。酒造りに水が欠かせないの言うまでもありませんが、この水がなくなると酒造りを続けることができません。その水を守るため、酒の仕込み水の水源である龍王山の森林を守ろうと2001年に西条・山と水の環境機構が設立されました(図1)。西条酒造協会(設立時は西条酒造組合)、広島大学などを中心とした産官学民が協働で「西条・山と水のグラウンドワーク」や、調査研究活動、啓発活動を行っています。山のグラウンドワークでは、西条の水源の山となっている龍王山・憩いの森において、下草刈りや除伐などの山の手入れ作業を年に6回程度おこなっています(図2、3)。この活動には、個人での参加はもちろん、大学生、高校生が授業の一環として参加する他、地域の企業の社会貢献活動として参加されます。手入れで出た除伐材はチップにして堆肥にし(図4)、酒米を育てる水田に還元しているほか(図5)、木炭を作って小川の水質浄化実験をしたり、バイオマス利用を進めるための木質ペレットづくりなどの循環型社会構築のための取り組みも行っています(図6)。また、「水のグラウンドワーク」では、源流域探訪、きき水体験、水質実験、水生生物採集などを含めた、山と水の関係について学ぶ活動を行っています。これらの活動の資金として、西条酒造協会加盟社の酒の売上の一部(1円/1.8L)を「西条・山と水の基金」に積み立ており、この資金の一部を用い、他の環境保全を行うグループへの助成も行っています。筆者が学生の時に代表をしていた環境保全団体「かつぱのおうち」は、第1回の助成で「山水賞」を受賞しました。

この取り組みは、平成27(2015)年版環境・循環型社会・生物多様性白書にて紹介された他(P82、第1部第3章第2節のコラム)、2016年3月に環境省が作成した「地域の産業団体等と連携した自然再生の取組 事例集」にも全国9つの先進事例の一つとして掲載されました。また、2015年12月に環境省が選定した「生物多様性保全上重要な里地里山」500箇所に活動地である「西条・造賀」エリアが選定されました。筆者も、2001年に広島大学でこの取り組みについて初めての講演が行われたときに学生としてその話を聞いていましたが、2011年より運営委員としてこの取り組みの推進に尽力しています。



## 会費納入のお願い

日頃より、当学会の運営に対しまして、ご支援・ご協力いただき厚く御礼申し上げます。当学会の活動は会員の皆様方の会費と寄付に支えられております。当会の活動も漸く軌道に乗って参りましたものの、今後、活動をさらに強化していくために、会費の納入をお願い申し上げます。既に納入済みの際にはご容赦ください。よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

原則として、入会申込書記載の所属機関宛とさせていただきますが、他住所への郵送を御希望の際は、その旨お知らせ下さい。また、納入の際にはお名前のみ入力にてお願い申し上げます。なお、会費納入状況につき不明の方は、imamura@waseda.jp までお問い合わせ下さい。

【振込み先】 三菱東京 UFJ 銀行 高田馬場支店  
普通 0126184  
政治社会学会事務局長 今村浩  
(セイジシャカイガツカイジムキョクチョウ イマムラ  
ヒロシ)

政治社会学会事務局

## 編集後記

今年 2016 年 1 月から 6 月までの政治社会学会の活動報告や会員からの便り、会員の学術や社会活動の報告を紹介する ASPOS Newsletter No6(2016 年 6 月 25 日発行)を皆さまにお送り致します。今まで通り、広報委員会では、ニュースレターの

編集作業を通じ、政治社会学会ホームページへの充実や改良等に努める予定です。そして、これまで毎回のニュースレター発行および全ての広報活動の実務的作業を担われています中村知子先生(事務局長)に深謝いたします。

広報委員会委員長 三石博行

広報委員会委員長 三石博行  
ASPOS Newsletter [政治社会学会 (ASPOS) 会報]  
No. 6 (2016 年 6 月 25 日発行)  
発行人：新川達郎 (理事長)  
編集人：三石博行 (広報委員長)  
E-mail: hiro.mitsuishi@gmail.com